

研究計画書

ゼミ名	足立ゼミ	チーム名	Adacheese
タイトル	「関西圏の交通インフラ企業の課題とまちづくりへの貢献可能性」		
テーマ群	b) 財政・金融 c) 公共経済 g) その他		
メンバー	宮脇大空、井上高、湊川桃未、空結夏、土井英恵、佐伯莉香、原田柊杜、柏木健斗、吉岡美俐、岡本凜咲		
研究計画内容	【研究背景】 近年、関西圏の交通インフラ業界は、社会構造の変化や環境問題など多くの課題に直面している。大阪・京都・神戸を中心に鉄道やバス網が発達している一方で、都心部と周辺地域では交通利便性に格差がある。施設や設備の老朽化が進み、維持・運営費の増加も深刻化している。国土交通省によると、今後 20 年で建設後 50 年以上となる施設の割合が急増すると予測されており、更新や補修の重要性が高まっている。また、少子高齢化によって運転士や整備士の確保が難しく、安定した運行体制の維持も課題である。さらに、公共交通の縮小により自家用車利用が増え、CO₂排出量の増加が懸念されている。このように、交通インフラ業界は単なる移動手段の提供にとどまらず、地域社会と連携し、持続可能なまちづくりに貢献することが求められている。 【研究内容】 本研究は、「交通インフラは単なる移動手段なのか、それとも地域の未来をつくる生命線なのか」という問いを中心に進めた。第 1 に、関西圏における公共インフラの現状と地域的傾向を整理し、主要な公共交通機関や関連企業の政策を分析した。第 2 に、JR 西日本の担当者をゼミに招き、交通インフラ整備や地域連携の取り組みについて講演を受け、交通事業者の視点から持続可能なまちづくりの課題を学んだ。また、阪急阪神ホールディングス本社を訪問し、企業の採用状況や地域との関わりについてヒアリングを実施し、同社が主催する地域連携イベントにも参加して、企業と地域住民の協働による価値創出の現場を体験的に理解した。第 3 に、これらの知見をもとに大学生を対象としたアンケート調査を行い、若者が交通インフラとまちづくりにどのように関わるかを分析した。最終的に、地域行政や企業との連携の在り方を検討し、持続可能な地域づくりにおける交通インフラの意義を明らかにした。 【期待される効果】 この研究を通して、交通インフラが地域の活性化や人とのつながりにも関わっていることを検証・考察する。研究結果から、交通インフラの今後は企業・行政・若者が連携し、老朽化や人手不足といった課題に地域全体で対応していくことが期待される。 【参考文献】 国土交通省「社会資本の老朽化の現状と将来」（インフラメンテナンス情報、 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/02research/02_01.html、2025 年 10 月 15 日閲覧） 総務省統計局「人口推計（2024 年（令和 6 年）10 月 1 日現在）」（総務省統計局、 https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2024np/index.html、2025 年 10 月 15 日閲覧）		